

日産車体株式会社 個人投資家向け会社説明資料

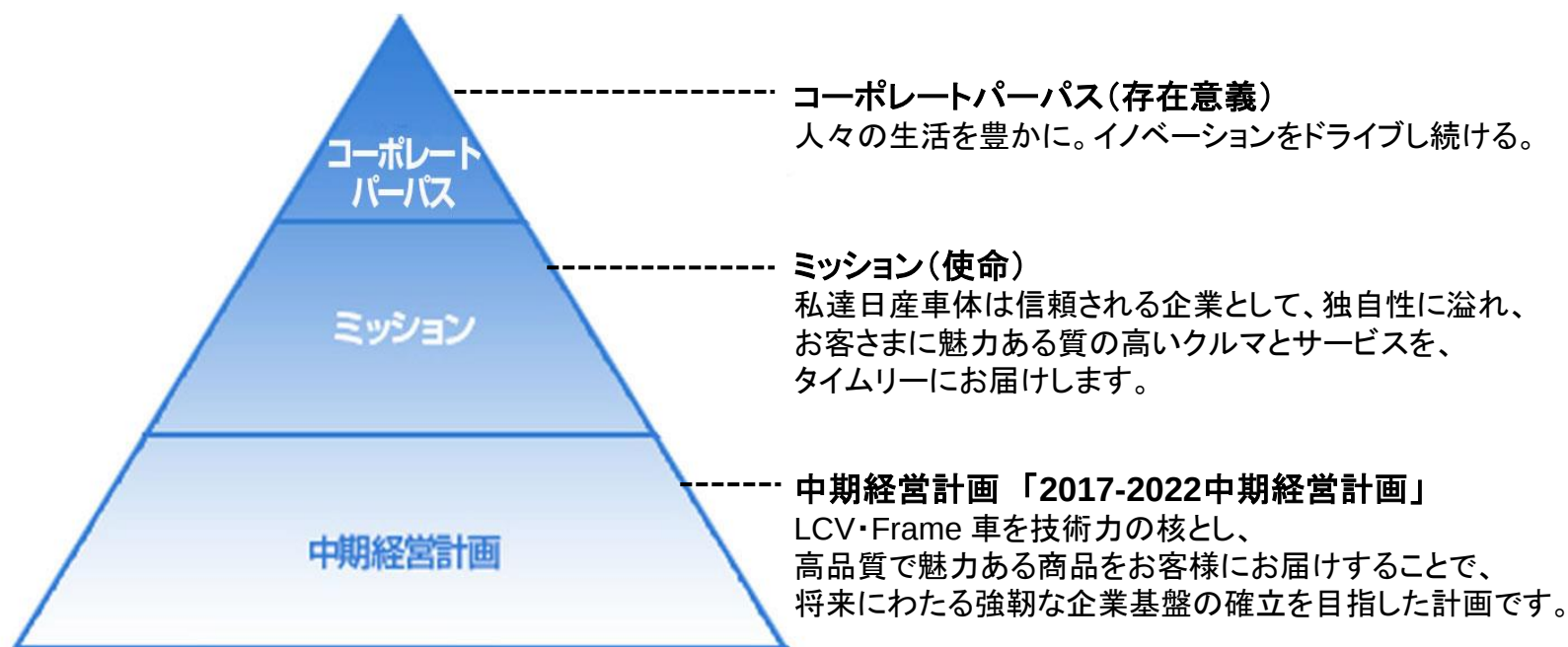
日本のモノづくりを世界へ



2022年5月

理念体系

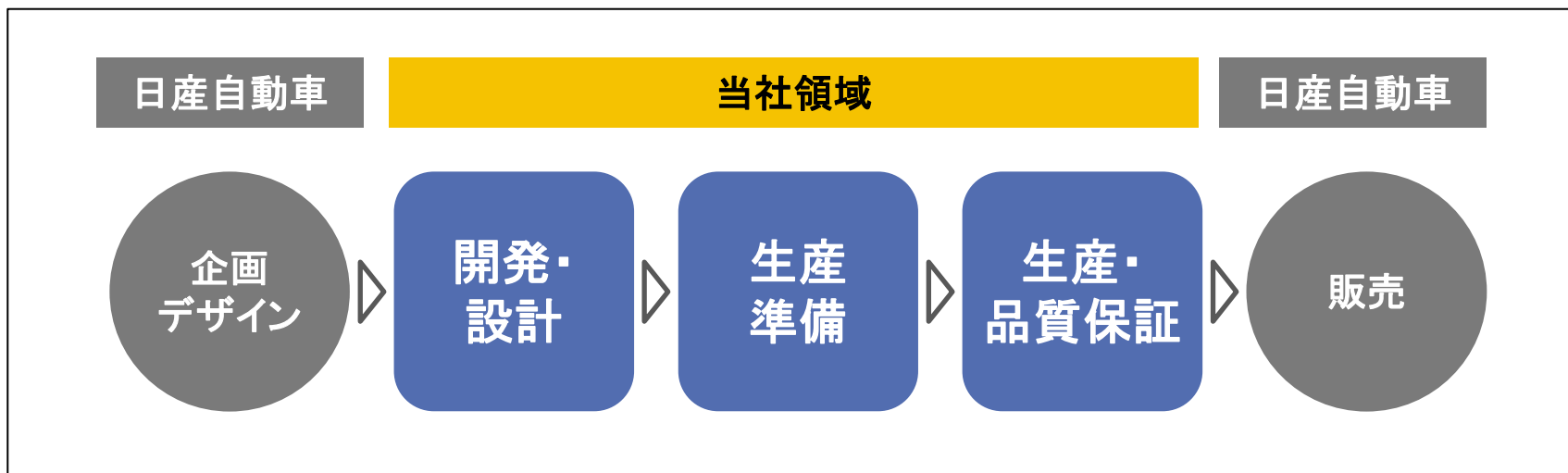
日産車体は、「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」というコーポレートパーパス(存在意義)及び「私達日産車体は信頼される企業として、独自性に溢れ、お客さまに魅力ある質の高いクルマとサービスを、タイムリーにお届けします。」というミッション(使命)に基づき、「LCV・Frame 車を技術力の核とし、高品質で魅力ある商品をお客さまにお届けすることで、将来にわたる強靱な企業基盤を確立する」を基本方針とした、2017-2022中期経営計画に取り組んでいます。



Outline

日産車体は、

「LCV・フレーム車」を中心とした開発から生産
までを担う日産グループの完成車メーカーです



LCV: Light Commercial Vehicleの略。小型商用車

フレーム車:トラックやバスに採用される頑丈な梯子フレームにパワートレーンなど走行機能搭載し、その上にキャビンを搭載する構造の車。当社製品:大型SUVのアルマーダ、パトロール、インフィニティQX80、小型トラックのパトロールピックアップ

日産車体グループ

湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点が主軸です

日産車体(株)

日産車体九州(株)

設立

1949年

2007年

事業内容

各種自動車の開発から
品質保証まで

自動車および
その部分品の製造・販売

従業員数

1,730名

1,113名

生産拠点

神奈川県平塚市

福岡県苅田町

(2022年3月31日現在)

湘南工場



日産車体九州工場



グループ会社

日産車体マニュファクチャリング株式会社

- ▶ 自動車部品の製造

日産車体エンジニアリング株式会社

- ▶ 生産設備、動力設備の企画・設計・製作・施工
- ▶ プレス金型の設計
- ▶ 生産設備、動力設備の維持管理
- ▶ 工場内物流サービス業務
- ▶ 物流機器・リチウムイオン電池関連製品の製造・販売

AWK株式会社 オートワークス京都

- ▶ 各種自動車の車体製造、特別架装、整備業

日産車体コンピュータサービス株式会社

- ▶ アプリケーションシステム開発
- ▶ システム保守・運用

株式会社 プロスタッフ

- ▶ 一般労働者派遣事業
- ▶ 有料職業紹介事業
- ▶ アウトソーシング

沿革

年 月	社 歴
2019年	7月パトロール(Y62)2020モデル生産開始
2018年	パラメディック(E26)発表
2016年	6月、日産車体九州で北米向け大型SUVの「新型アルマーダ」生産開始
2014年	3月、新本社を第2地区に竣工・湘南再編完了
2012年	湘南工場第1地区での車両生産を終了、湘南工場第4地区での車両生産を第2地区へ集約、湘南工場の車両生産体制の再編を完了
2010年	日産車体九州稼働開始
2007年	子会社「日産車体九州株式会社」設立／生産累計1,500万台達成
1992年	生産累計1,000万台達成
1951年	日産自動車(株)と提携
1949年	当社前身 新日国工業(株)設立

▶ インフィニティ



インフィニティ QX80

▶ LCV



NV200 NY市 タクシー提案モデル

▶ ミニバン



▶ フェアレディZ



グループのご紹介

主な生産車

湘南工場



NV200
VANETTE
NV200 バネット



AD
AD

日産車体九州



Infiniti QX80
インフィニティ QX80



PATROL
パトロール : Y62



PATROL
パトロール : Y61



PATROL PICKUP
パトロール ピックアップ



ARMADA
アルマーダ



ELGRAND
エルグランド



CARAVAN
キャラバン

オートワークス京都



救急・医療関係車両



消防関係車両



幼稚園バス



公共応急作業車両



公共応急作業車両

※ 株式会社オートワークス京都は、パラメディック(高規格救急車)など救急・医療関係車両、消防関係車両、幼稚園バス、公共応急作業車両など働くクルマの架装を行っている日産車体株式会社のグループ会社です。

特長

完成車メーカーとしてのDNAを活かした、 多くの特長を持っています

湘南工場

LCVを中心とした多車種少量生産の
一大拠点



▶ モノコック車



▶ フレーム車

日産車体九州

厳しい品質基準をクリアし、日産のラグジュアリーブ
ランドである「Infiniti」の生産を許されている工場



▶ ローラーヘミングによるエンジンフードの生産



▶ 新塗装技術

特装車

グループ内での一貫生産により、高品
質な特別仕様車をスピーディに提供



2021年度 連結決算概況

2021年度の出来事と主な成果

【2017-2022中期経営計画 2021年度の振り返り】

[1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- 燃費、排ガス性能を高め、LCV CAFE(企業別平均燃費基準)に対応。同時に、商品力を向上させたAD、NV200バネット、キャラバン(ガソリン・ディーゼル)のマイナーチェンジ車の立ち上げ
- フリート販売支援として、中近東のお客さまとのオンラインでのダイレクトコミュニケーションやその他の地域での商品勉強会、拡販イベント支援を実施
- PATROL、Infiniti QX80スペシャルバージョン、PATROL NISMOが好調

[2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 国内市場初期品質において、AD、NV200バネットが日産グループ内トップレベルを維持

[3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- 次期型車に向けて着実に技術を蓄積
LCVの使われ方に則した先進安全技術の制御ロジック開発
次期型フレーム車を見据えたプレス工法、アッセンブリ工法の検証

決算サマリー

感染症の拡大影響や半導体不足等により生産活動が制約される状況が続き、また、有償支給取引における「収益認識に関する会計基準」等の適用により、減収・減益となった。

売上台数

半導体不足に起因する減産等により、前連結会計年度比15.4%減の11.4万台

売上高

主に台数減少の影響や、有償支給取引等における「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等の適用により1,475億円減収の2,153億円

営業損益

売上台数の減少等により、40億円悪化の35億円の損失

親会社株主に帰属 する当期純損益

41億円悪化の22億円の損失

設備投資

新商品、マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化、厚生施設の改善、環境改善など、80億円の設備投資を実施いたしました。

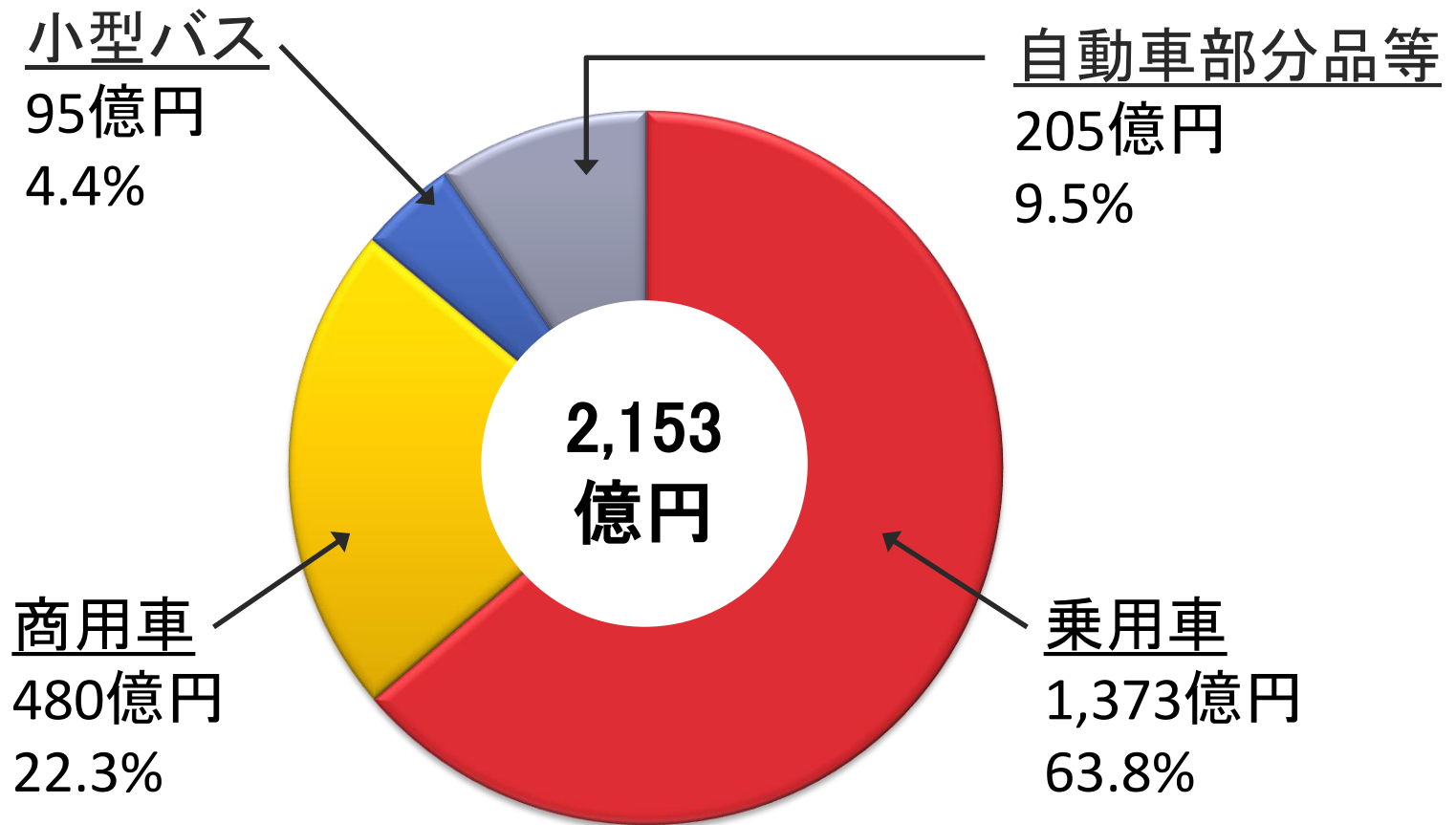
2021年度 通期決算

業績ハイライト

	2020年度 (2021/3)	2021年度 (2022/3)	増減額	増減率
売上高	3,628	2,153	▲1,475	－
営業損益	4	▲35	▲40	－
経常損益	19	▲25	▲45	－
親会社株主に帰属する 当期純損益	19	▲22	▲41	－

単位：億円

製品別売上高構成比

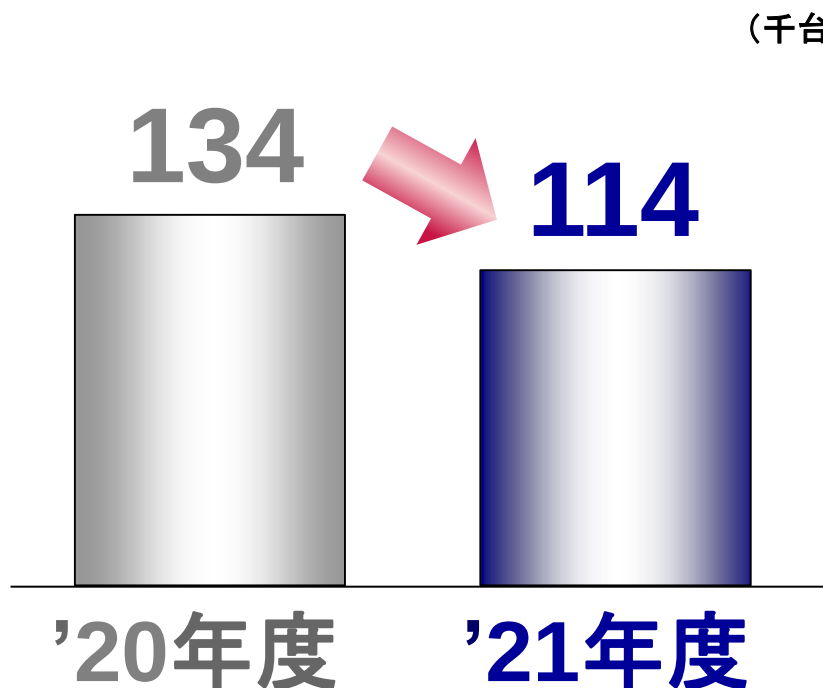


2021年度 通期決算

売上台数

半導体不足に起因する減産等により、前連結会計年度比15.4%減の11.4万台

(千台)



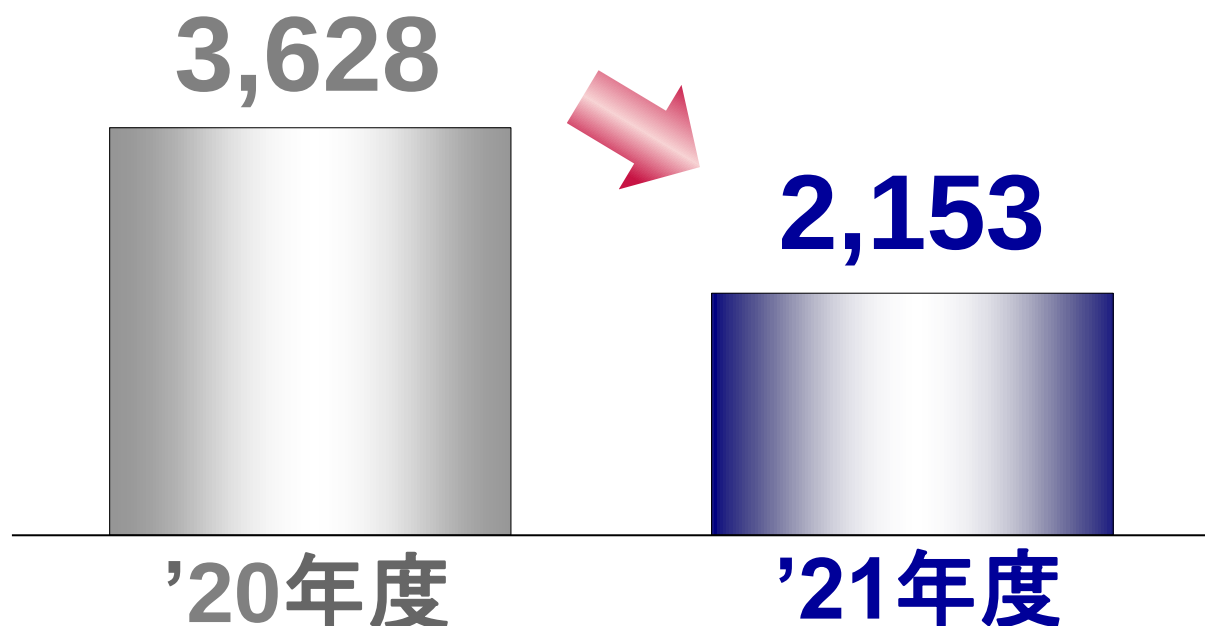
(千台)

	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	61	57	▲6.5%
商用車	66	49	▲25.1%
小型バス	8	8	▲3.1%
合計	134	114	▲15.4%

売上高

主に台数減少の影響や、有償支給取引等における「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等の適用により1,475億円減収の2,153億円

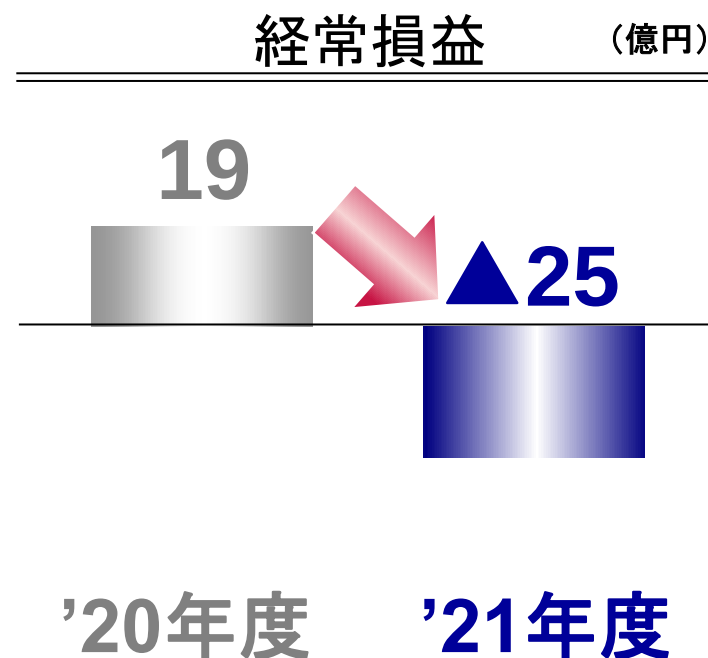
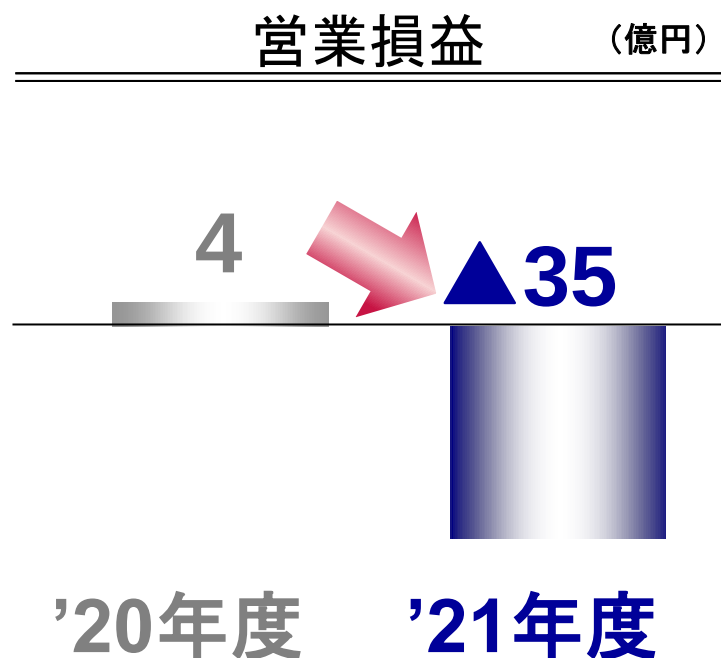
(億円)



2021年度 通期決算

営業損益／経常損益

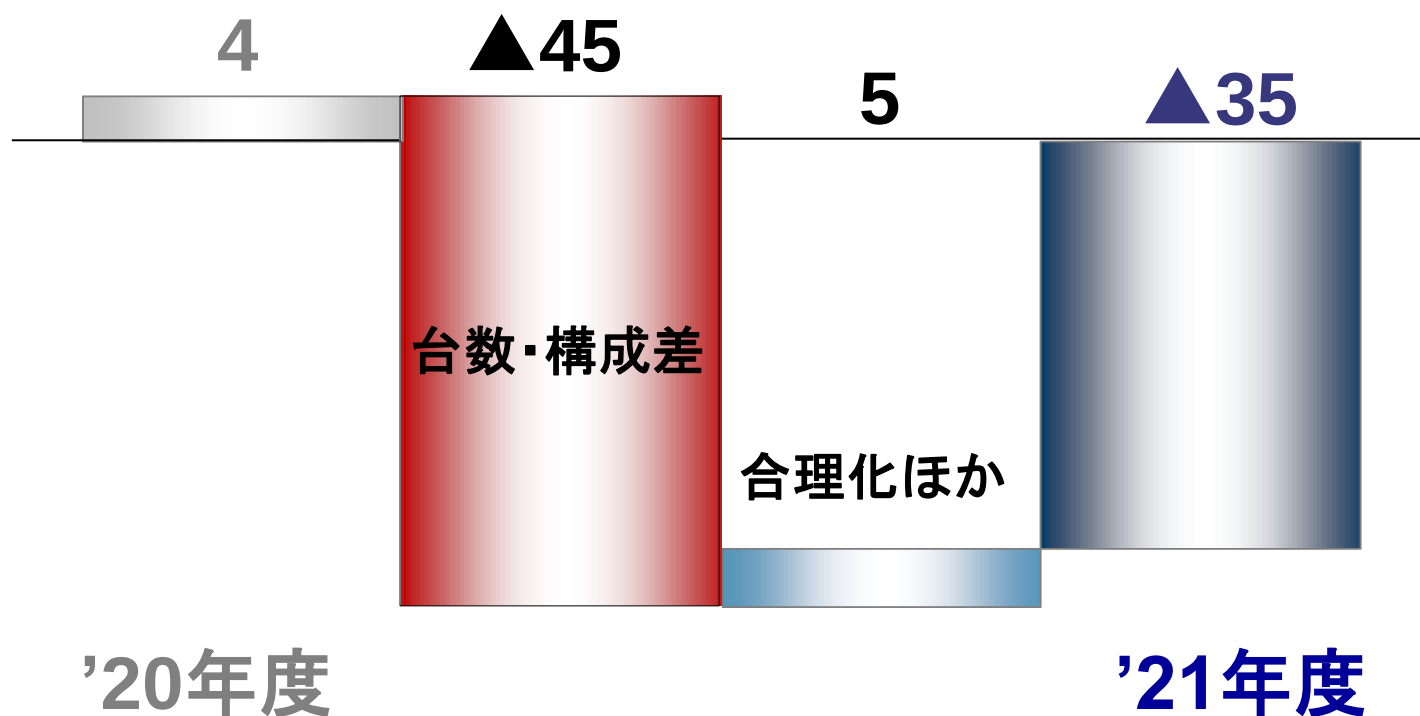
売上台数の減少等により、40億円悪化の35億円の損失



2021年度 通期決算

営業損益の増減要因

(億円)

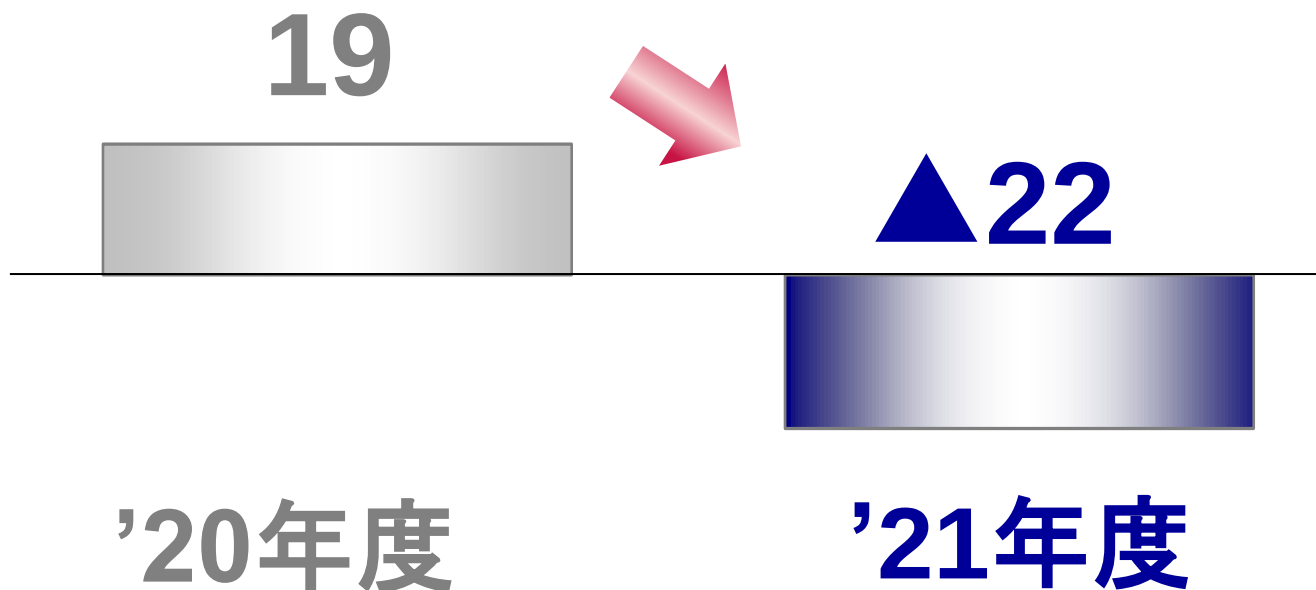


2021年度 通期決算

親会社株主に帰属する当期純損益

41億円悪化の22億円の損失

(億円)



2022年度 連結業績見通し

2022年度の主な取り組み

【2017-2022中期経営計画 2022年度の振り返り】

[1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- 各国法規や社会要件にタイムリーに対応するとともに、商品力の更なる強化に継続的に取り組む日本でのお客様の声を聞く活動、営業イベントの支援等に加え、新規の活動を追加
- 中近東における中小企業向け拡販を支援、及びフィリピンでの大口顧客との商談をオンラインで支援
- さらなる新規市場の開拓のために「移動事務室車」等、新しい特装車に取り組み、ビジネスを拡大

[2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 湘南工場において、生産台数に見合った適正化に取り組み、品質を中心に据えた上でQCT競争力強化を図る
- 日産車体九州において、次期型車の生産準備を確実に進める
- 併せて、将来のカーボンニュートラルへの取り組みを推進

[3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- LCV商品力向上に加え、次期型車や今後求められる技術を見据えて、新たなアイテムの積み上げを強化

2022年度 業績見通し

2022年度の業績予想

<取り巻く環境と見通し>

引き続き部品の供給不足により生産活動が制約されることや原材料価格の高騰等、不透明な状況が続くと考えられるが、半導体を始めとする各種部品の供給不足等のリスクの低減と稼働の正常化に努め、2023年3月期の生産台数は2022年3月期と比べ増加を見込んでいる

	2021年度 (実績)	2022年度 (計画)	増減額	増減率
売上高	2,153	3,143	989	45.9%
営業利益	▲35	95	130	—
経常利益	▲25	99	124	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲22	64	86	—

単位:億円

株主還元

株主還元

継続的な安定配当を基本に、年間13円を予定

■ 中間配当金 ■ 期末配当金

